百世不磨（ひゃくせいふま）

其ノ十二

創立者 平生釟三郎の教えを礎に積み重ねる「甲南教育」を永遠に消えることなく、存在し続けるさまを表す「百世不磨」という標題にたとえ紹介いたします。

100 100th ANNIVERSARY KONAN GAKUEN

2019年4月、甲南学園は創立100周年を迎えます。

平生釟三郎（ひらおはちさぶろう）と甲南病院（こうなんびょういん）

設立当時の甲南病院玄関

非営利・病人本位の病院

昭和9年6月17日、鴨子ヶ原（現神戸市東灘区）の高台に5層の甲南病院が雄姿を現した。非営利で「中流以下」の人々のための病院、医師は「医は仁術」をモットーにし、看護婦は専ら病人のために尽す病院、という平生釟三郎の悲願がここに一歩を踏み出した。彼はその喜びを開院式の挨拶で次のように述べた。

「吾々人類の生存を脅かし、幸福を傷つくるの一大原因は病気であります」。一家のうち誰かが病気になれば、家族全員が心を傷め労を費やさなければならない。「今や科学の進歩と共に医学と薬学の研究応用は著しく発達しましたが、一方文化の進歩、産業組織の発達と共に貧富の懸隔は益々大となり、中流以下の人々は眼前に進歩した医術と良薬を見ながら資力乏しきため其恵沢に浴することができませぬ」云々。

また衆議院議員安達謙蔵は、「現代社会の欠陥ともいふべき防貧機関」は不十分で、特に「貧乏の最大原因は病」である。最低の治療費で短期間に病を治癒させることが「最大急務」であるが、甲南病院はまさにそのような趣旨の病院であり、これにならって次々と同様な病院が建設されることを切望する、と祝辞を述べた。

階級間の融和を図る医療

大整理をしたばかりの川崎造船所の社長に昭和8年3月に就任した平生は、甲南病院開院と同年同月に、「工場の労務員はビルディング建設に於ける基礎工事」これを堅固にする機関として、甲南病院と同額の資金100万円で川崎病院の建設を提案し、翌年完成させた。平生の考えでは、教育や経済と同じく、病院は個々人の病気を治療するだけではなく、個々の会社、さらに社会そのものを健全にする基礎的機関であった。

すでに大正7年1月の日記に興味深い議論が見られる。「ノーキュア、ノーペイ」、つまり全治しない患者からは報酬を受けず、全治した富豪からは多大の報酬を請求する病院は、自ら社会に尽そうとしない富豪に「間接的に慈善」を行わせる病院である。また、経済社会が行詰まり、無産者の革命が現実味を帯びてくれば、富豪こそがそれに気づいて積極的に行動を起こさねばならないが、彼らが医療を通じて階級間の融和を図れば、実はそれこそ子孫のための「保険料」でもあると。

この信念のもと、平生は一方で奨学金で医師を養成しつつ、富豪たちから甲南病院建設資金を拠出させる策を考えた。最大の難問はやはり財閥からの資金調達。関西の雄住友は新病院の趣旨を了解し「即決」した。しかし三菱と三井は渋った。岩崎久彌には寄付は三菱合資会社が窓口で「個人としては一切関係せず」と端（はな）から相手にされない。三井との交渉も総帥の團琢磨は病院への寄付は絶対拒否、と取りつく島もなかったが、要求額の半額5万円は何とか約束を取り付ける。

この間関西中心に平生の誠意で70万円が集まり、敷地は住吉村の鴨子ヶ原に決まる。病院を財団法人にするためには内務省からの認可が必要であったが、安達謙蔵内相や井上準之助蔵相など政府の要人との太いパイプのおかげで、昭和5年12月末、わずか4か月で認可が下りた。この結果を三菱合資会社に知らせると、さすがの三菱も三井と同額の寄付に応じた。

地域と連携する先端医療機関をめざして

開院式後、彼は自宅で安楽椅子にもたれ、これまでの病院建設の経緯と幾多の苦労を思い出しながら、至福の時間を過ごす。「一人にして自己の理想を実現すべき学校と病院を建設せんとするが如き事は、思へば僭上の企画ともいふべく、…幸いに心身共に強健にして六十九才の今日に於てこの二兎を逐ふて二兎を獲るに至りたること、実に望外ともいふべきか」。

病院について一般の人々の評価も極めて高く、彼等は異口同音に、「かかる風光絶景なる病院に病を養ふとすれば医薬なきも自然の力に依り全快すべし」と賛辞を惜しまなかった。

だが甲南病院も開院から既に85年。時代とともに急速に変貌を遂げる環境に自ら対処して行かねばならない。今や神戸大学の重要拠点病院として連携を一層強化するとともに、甲南病院などを経営する甲南会、甲南大学など東灘区内の三大学、東灘区役所は『東灘次世代医療人材育成コンソーシアム』を結成し、地域医療の課題解決に取り組み始めている。2019年には、新病院のI期工事竣工を迎え、「医は仁術」、「病人本位の病院」という平生釟三郎の理念はさらに前進し続けている。

甲南学園

甲南大学　甲南高等学校　甲南中学校

広報部：〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1 TEL.078-435-2314